

表17 赤穂・城西地区 年表(1)

時代	年代	できごと
古代	天平勝宝8(756)年	縄文海進の最盛期は雄鷹台山の山麓まで海であった
	承和9(842)年	赤穂郡坂越郷の「聖生山(塩山)」30余町が東大寺に施入される(「播磨国符案」)
中世	大治5(1130)年	石塩生荘園の範囲が「東 赤穂川 西 大依松原 北 百姓口分并塩生山崎」と記載
	仁平3(1153)年	東大寺の荘園「石塩生荘」50町9反172歩、塩山60町(「東大寺諸荘文書并絵図等目録」)
	文治元(1185)年	このころ「石塩生荘」が「赤穂庄」と呼ばれ始める(「東大寺諸荘園文書目録」)
	文安2~3年(1445~1446)	このころ赤穂荘は石清水八幡宮となっていた
	享徳年中(1452~1455)	中庄(中村)、坂越浦から兵庫北関への入船記録(「兵庫北関入船納帳」)
	文正元~文明15年(1466~1483)	赤松満祐の一族、岡豊前守光景が加里屋古城を築く(「播州赤穂郡志」)
	文明・長享年中(1469~1489)	岡豊前守光広が加里屋古城を構築する(「播州赤穂郡志」からの市史説)
	延徳2(1490)年	加里屋北部の山麓から上町出屋敷に集落が移住
	明応7(1498)年	播磨六坊の一つ、永應寺が中村に建立される
	明応~永正年間(1492~1521)	本願寺実如、坂越庄中村の善祐に方便法身尊形を下付する
近世	享禄元(1528)年	塩屋高山山麓の集落が加里屋上町に移住する(「播州赤穂郡志」)
	天文元(1532)年	「享禄元戊子年民家今ノ吉丁目・出河原・式丁目辺ニ出ル」(「赤穂城ヶ州伝来書」)
	天正2(1574)年	大蓮寺を開山した察道が没する
	天正10(1582)年	坂越庄中村の法言に方便法身尊形を下付
	天正14(1586)年	万福寺が那波(相生市)から加里屋に移される
	天正15(1587)年	羽柴秀吉、加里屋に新土手(姫路街道・後に百日堤)を築かせる
	慶長5(1600)年	生駒親正が伊勢国神戸から赤穂に入部する(6万石) 赤穂藩が初めて成立する
	慶長5~7年(1600~1603)	生駒親正は讃岐に移され、宇喜多秀家が配置される
	慶長8(1603)年	宇喜多忠家、坂越・高野・中村・尾崎を地方知行か 宇喜多秀家の検地(真殿村文書:市指定)
	慶長18(1613)年	池田輝政が播磨一国52万石を与えられ、三河国吉田から姫路城に入る
	元和(1615)年	池田輝政の末弟、池田長政が加里屋に在城する(2万2千石)
	元和2(1616)年	搔上城が築かれる
	元和7(1621)年	池田輝政の家臣、垂水半左衛門勝重が赤穂郡代となる(知行500石)
	寛永8(1631)年	池田輝政死去、赤穂は岡山藩池田忠継(輝政の次男)領(38万石)となる
	寛永17(1640)年	池田(松平)政綱が赤穂に入封する(3万5千石)
	正保2(1645)年	赤穂藩が再び成立、藩邸を改め、大書院、広間、玄関、敷台、土蔵を築く
	慶安2(1649)年	赤穂上水道の完成(「播州赤穂郡志」)。雲甫、随鸞寺を開創
	承應元(1652)年	加里屋全焼して中村へも飛び火、垂水半左衛門がはじめて町割を実施
	承應2(1653)年	池田(松平)輝興が平福から赤穂に入封(3万5千石)
	寛文6(1666)年	藩邸に金の間、曲輪に多門・隅櫓、城内に馬屋を築く
	寛文9(1669)年	妙典寺(高光寺)、大津村から加里屋新町に移される
	寛文11(1671)年	浅野長直が常陸国笠間より赤穂に入封(5万3千5百石)
	延宝3(1675)年	浅野長直、近藤三郎左衛門正純に命じ、加里屋城鎮守愛宕山社を創建
	貞享4(1687)年	赤穂城築城開始、戸島用水敷設
	元禄年中(1688~1703)	山鹿素行を禄高1千石で召抱える、二之丸門周辺の縄張を変更
	元禄3(1690)年	加里屋田町の造成完了
元禄4~元禄13年(1691~1700)	焼失した皇居造営工事のため赤穂藩、米、銀、金を支出	
元禄7(1694)年	赤穂城完成	
元禄14(1701)年	山鹿素行、「聖教要録」が原因となり赤穂へ預けられる	
元禄15(1702)年	山鹿素行「大石氏の茶亭に遊ぶ」(「年譜」)	
元禄16(1703)年	浅野長直が隠居、長友が跡を継ぐ(5万石)	
宝永3(1706)年	浅野長友が江戸で死去、長矩が跡を継ぐ(5万石)	
享保14(1729)年	本丸、二之丸に馬場をつくる(「播州赤穂郡志」)	
元文4(1739)年	小広門村、洪水のため中村に移り廃村(「播州赤穂郡志」)	
安永6(1777)年	中洲の馬場を片原町侍屋敷の西に移す(播州赤穂郡志)	
安永7(1778)年	川端筋ができる	
天明7(1787)年	浅野長矩の願いにより、弟長広(大学)に新田3千石の分知が認められる	
文化12(1815)年	三代藩主長矩が、江戸城において刃傷事件を起こし即日切腹、赤穂浅野藩断絶	
文政5(1822)年	大石内蔵助をはじめとする赤穂義士が吉良邸に討ち入る	
天保13(1842)年	永井伊賀守直敬が下野国烏山より赤穂に入封(3万3千石)	
安政3(1856)年	追手(大手)橋新たに架けられる	
万延元(1860)年	近藤源八屋敷火事(「那波屋文書写」)	
文久元(1861)年	森和泉守長直が備中国西江原より赤穂に入封(2万石)、明治廃藩まで12代続く	
文久2(1862)年	「加里屋町明細帳」「中村明細帳」	
	城内作事屋普請小屋より出火、旧大石屋敷類焼(「史蹟明鑑」)	
	花岳寺に浅野長矩・四十六士墓を建立	
	藩校博文館が上飯屋に落成	
	赤穂城本丸内屋敷出火、累代記録多く焼失(「森家累系譜」)	
	司馬江漢、赤穂を訪れる(「江漢西遊日記」)	
	城内出火あり、侍屋敷六軒並びに作事小屋木役所焼失(「新浜記」)	
	本丸御殿の台所の水道枡を取り替える	
	赤穂城本丸内の給水管を7間分新設する	
	大石屋敷長屋一棟建替(「大石邸棟札」)	
	上水道、農神道筋より塩屋村まで大改修する	
	赤穂城本丸御殿建替、上棟式を行う	
	西川升吉ら、家老森主税らを暗殺する(文久事件)	
	赤穂城本丸御殿の建替	

表 18 赤穂・城西地区 年表 (2)

時代	年代	できごと
近代	明治元(1868)年	城内の三之丸及び二之丸後郭西部が土族、農民の田畑に分割される
	明治4(1871)年	廃藩置県、赤穂・岡山藩領は赤穂県、岡山県となる
	明治5(1872)年	赤穂城廢城決定
	明治9(1876)年	兵庫・飾磨・豊岡3県と名東県淡路を統合、兵庫県が成立する
	明治11(1878)年	本丸藩庁解体、赤穂尋常高等小学校校舎として移築される(「花岳寺所蔵棟札」)
	明治14(1881)年	花岳寺住職釈種仙球が旧大石邸長屋門購入保存
	明治25(1892)年	千種川氾濫により大被害
	明治25～27年(1892～1894)	明治25年の洪水災害復旧の築石のため、二之丸城壁の一部が撤去される
	明治30(1897)年	大石神社建立のため大手門枳形の南塁をくずし、北方多門をうずめて改造する
	明治38(1905)年	塩専売制施行、赤穂に塩務局が設置される
	明治41(1908)年	日本専売公社赤穂支局庁舎が完成
	明治44(1911)年	赤穂電灯株式会社設立される、赤穂・坂越間に電話線が新設される
	大正元(1912)年	赤穂大石神社建立される
	大正9(1920)年	中村への上水道配・給水
	大正10(1921)年	赤穂鉄道(赤穂一有年間)が開通
	大正12(1923)年	大石良雄宅跡、国指定史跡となる
	大正14(1925)年	旧大石頼母屋敷の敷地内に山鹿素行銅像建立
	大正15(1926)年	中村、広門村と合併し中広と改称する
昭和3(1928)年	兵庫県立赤穂中学校校舎、本丸跡に竣工	
昭和7(1932)年	大石邸長屋門、宝物陳列場に改造される(「赤穂新報」)	
昭和10(1935)年	大手門前の堀が復旧し(「赤穂タイムス」)、太鼓橋が竣工(「土風時報」)	
昭和12(1937)年	赤穂町・塩屋村・尾崎村・新浜村が合併して大赤穂町が誕生 本丸跡天守台の崩壊が修復される、赤穂大橋が完成する 赤穂城跡が風致地区に指定される(22.1ha)	
昭和15(1940)年	千鳥が埋め立てられる	
昭和18(1943)年	赤穂町に近代的水道が敷設される	
現代	昭和19(1944)年	千鳥の開拓開始
	昭和23(1948)年	日本専売公社が発足
	昭和24(1949)年	赤穂町・坂越町・高雄村合併し、赤穂市が施行
	昭和26(1951)年	国鉄赤穂線が開通、赤穂鉄道が廃線 本丸西側の石垣開口
	昭和27(1952)年	赤穂城跡公園(普通公園)都市計画が決定(16.7ha)
	昭和28(1953)年	第一地区(加里屋地区)区画整理事業施行
	昭和30(1955)年	大手隅櫓、大手門が整備される 国鉄赤穂線、赤穂一日生間開通
	昭和33(1958)年	山鹿素行銅像を再建
	昭和36(1961)年	中洲地区土地区画整理事業施行
	昭和39(1964)年	駅北土地区画整理組合設立
	昭和40(1965)年	城跡公園計画決定区域のうち7haについて城跡公園事業決定を受ける
	昭和42(1967)年	赤穂城本丸厩口門が開口される 上仮屋地区土地区画整理事業施行
	昭和43(1968)年	赤穂城跡二之丸内に赤穂塩業資料館が竣工する
	昭和44(1969)年	旧日本専売公社赤穂支局の隣接地に新庁舎竣工、役割を終える
	昭和45(1970)年	新赤穂大橋が完成
	昭和46(1971)年	赤穂城跡が国史跡に指定される(指定面積187,895㎡)史跡買上げに着手
	昭和49(1974)年	赤穂城跡の石垣修理が始まる
	昭和50(1975)年	都市計画事業認可(7ha)
	昭和51(1976)年	台風17号による大水害
	昭和53(1978)年	大石良雄宅跡長屋門解体修理工事完了
	昭和55(1980)年	旧赤穂上水道の総合調査が実施される
	昭和56(1981)年	史跡赤穂城跡整備基本構想策定、旧赤穂上水道保存計画書策定 兵庫県立赤穂高等学校校舎、城外の尾崎へ移転する 市民総合体育館完成、新市庁舎完成、公共下水道供用開始
	昭和58(1983)年	本丸跡の発掘調査が始まる 赤穂市立民俗資料館が開館
	昭和59(1984)年	本丸天守台石垣修復
昭和61(1986)年	本丸表御殿大池泉などの復元	
平成元(1989)年	赤穂市立歴史博物館が開館	
平成5(1993)年	赤穂海浜大橋が完成	
平成6(1994)年	磯浜工業団地完成	
平成8(1996)年	本丸門復元完成	
平成10(1998)年	市民病院の移転改築・開院	
平成11(1999)年	三之丸近藤源八宅跡長家門解体復元完了 「お城通り」が市街地景観形成地区に指定される	
平成12(2000)年	JR播州赤穂駅の橋上化が完成	
平成13(2001)年	厩口門整備によって本丸整備完了	
平成14(2002)年	旧赤穂城庭園(本丸庭園、二之丸庭園)が国名勝に指定される 二之丸庭園の整備開始	
平成15(2003)年	赤穂城跡の一部、国史跡に追加指定(2,510.17㎡)	
平成17(2005)年	赤穂駅前大石神社線(お城通り)整備完成	
平成18(2006)年	赤穂城跡二之丸庭園で屋形舟遊覧事業開始 赤穂城跡が日本100名城に、赤穂城跡公園が日本の歴史公園100選に選定	
平成19(2007)年	本丸内で赤穂国際音楽祭が開催される	
平成25(2013)年	二之丸加里屋川沿い城壁修理に着手	
平成28(2016)年	二之丸庭園の一部公開開始 旧赤穂上水道敷設400年記念事業実施	